

コトト交配

いかずち
IKAZUCHI

中早生を生かした
低温期のハウス促成から
抑制栽培まで

玉揃い

高粉質

肉色濃い



いかずち 南瓜

IKAZUCHI

栽培の要点

ハウス促成～抑制栽培まで

特 性

- 安定した高粉質。甘さとのバランスがよく食味が良い。
- 果肉は濃い橙黄色で、カット販売で見栄えが良い。
- 肩張りの良い偏平形、1.7～1.8kg内外でよく揃い、果皮色は極濃緑で濃暗灰緑のちらし班と明瞭な条班が入る。
- 茎葉は中程度で節間長、葉柄はやや短かめとなり、草勢はおとなしい。葉は濃灰緑色でかすりが入る。
- 雌花は7～8節位より3～4節毎に着生し、花粉の出がよく着果性が良い。

作型と栽培のポイント

栽培方法

	整枝本数	収穫数	畦巾(m)	株間(cm)	株数/10a	誘引方法
①	親 1	2	4	40	625	一方向
②	子 2	4	3～3.5	60	477～555	一方向
③	子 3	5～6	3～3.5	90	315～370	一方向
④	子 3	3～4	3	75	440	半放任

- 育苗において雌花の分化は、低温で促進されるので最低気温8～10℃、日中晴天の最高温度25～30℃とす。地温は15～16℃以上を確保する。徒長させない。
- 定植は、朝方の地温が15～16℃以上を目安とし、活着がスムーズになるように管理する。
- 抑制の定植苗は、双葉から本葉1枚までの間に十分な灌水を行う。
- 子ヅル整枝は、親ヅル摘芯を4～5枚で行う。子ヅルの長さが15～20cmの頃に太さ、長さの揃ったツルを2本又は3本残す。その後伸長してきたときはツルが交差しないように整枝整頓する。
- 施肥量は、2本整枝4果どりを目標とするとき、N 14 : P 20 : K 15kg/10a(成分量)を基本とする。株数が少ないとき

栽培適期表

栽培型	月	日												
		12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	
ハウス		○	---	●	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
トンネルⅠ				○	---	●	—	—	—	—	—	—	—	—
トンネルⅡ					○	---	●	—	—	—	—	—	—	—
露地						○	---	●	—	—	—	—	—	—
抑制		■												

- は増量し、多いときは減量する。地力の程度によって増減する。元肥70%で行い、草勢を加味して追肥を増減する。
- 追肥は、ツルが50～60cmの頃に行う。ハウス栽培では、ツル先側に待ち肥としてあらかじめ施用しておくのも良い。
- 着果は、子ヅルの12～13節頃から着果させる。低節位着果は、変形果になる場合があるので摘花(果)する。
- 高品質果実の収穫に向け、接地面の黄色をなくすため着果後14～20日位にシートをしく。又は、収穫10～14日前に玉直しをする。あるいは、ハウスのパイプを利用して宙づりにするのも良い。
- 収穫の目安は、開花後43日頃であるが、果梗のコルク化の程度と試し切りによって判断する。